

ご挨拶

楠岡 誠一郎

今年の4月に教授に昇進させて頂きましたので、この場を借りてご挨拶させていただきます。私の専門分野は確率論で、その中でも特に確率解析の研究をしています。以前は確率微分方程式やマリアヴァン解析を中心に研究を行っていましたが、最近は特異確率偏微分方程式と呼ばれる手法を用い、量子力学における構成的場の理論の研究を主に行っています。

確率論の研究者にとって京都大学は特別な場所で、過去には伊藤清先生や渡辺信三先生といった確率論研究者ならば必ず名前を知っている著名な数学者が在籍し、当時から日本の確率界を牽引する研究機関でした。さらに当時の日本は世界の確率論を先導する立場にあり、海外から日本学派と呼ばれる程の地位を築いていました。このように日本確率論の聖地ともいえる京都大学において教員として数学に携わる仕事ができることは、嬉しくもある反面、身の引き締まる思いでもあります。

私は慶應義塾大学で学位を取得し、2011年4月から学振PDの特別研究員として京都大学の数学教室に1年半所属しました。所属機関として京都大学を選んだ理由はもちろん京都大学が確率界を牽引する役割を担っていたからであり、そのときの受入教員は重川一郎先生でした。このときに沢山の確率論研究者と交流をもつことができましたが、当時はGCOEの期間中であったため、確率論以外の分野の学生や若手研究者も沢山京都大学に所属しており、そのおかげで他分野にも沢山の知り合いや友人ができました。専門外の話は深くは理解できていないですが、色々な数学を教わったことは今でもよく覚えています。教員となった今は忙しく会うことも少なくなりましたが、たまに出張で会うと一緒に食事に行くなど、今でも仲良くさせてもらっています。当時はPDという不安定な身分を早く終えたいと思っておりましたが、今思うと若くして京都大学に所属できた1年半の期間はかけがえのない時間でした。ちなみに、私はよく京都大学出身と間違われますが、PDの頃にできた京都大学出身者の知り合いが沢山いるからだと思います。

京都大学での学振PDの後、東北大学に助教、岡山大学に准教授として赴任し、2019年の4月に京都大学に准教授として着任しました。コロナで3年ほど混乱した時期があったため、あっという間に時間が過ぎてしまったという印象です。京都大学に赴任して最も変わったことは、初めて博士課程の学生をもつことになったことです。学生とのセミナーを行う度に、私は京都大学の学生はとても優秀であると感じています。京都大学は自由の学

風を伝統として、自学自習を教育理念として掲げていますが、このような方針が数学ととても合っているように思います。実際、学生が自分自身の研究において、勝手に調べて勉強をし、私の思いもよらない方向から考察を行ったりするところは、京都大学の教育理念から来るもので、数学を研究するにあたって理想的であると私は思っております。学生には自主性を大切にしてもらい、周りからのアドバイスには真摯に耳を傾けながらも、最終的には自分自身の判断と責任をもって物事に取り組む様な研究者や社会人になってもらいたいと考えています。

ところで近年の数学業界は、インターネットの発展により展開が非常に速くなり、厳しいプライオリティの競争がなされています。さらにインターネットは誰でも様々な文献を取得できる環境を生み出しているため、競技人口も増えており、これもまた競争を激化させている要因となっていると私は思います。残念ながら、日本の丁寧で繊細、かつ自己完結的な論理展開や証明を行うような戦い方は、このような速さを求められる競争において不利であると感じます。しかし、このように証明や議論を完璧に行うことは本来の数学のあるべき姿であり、決して疎かにしてはいけない部分でもあります。このことに関しては私もとても悩まされましたが、私より若い研究者や学生にとってはより深刻な問題であるように思います。学生には研究にとって最も重要な、真理の追究を第一に考えるように指導する一方で、現実を見据えて自身が損をしない戦い方もするようにも指導しなくてはいけないと思っております。将来的には、上で述べたような信念を共有する数学者が増えることによって、量より質を重視する、過度に競争を求められない数学業界に戻ると期待しています。

京都大学には優秀で高い向上心を持った学生が沢山在籍し、日本の貴重な数学者育成機関となっております。数学を含め様々な事に関して展開が速く、世の中の変化への適応が求められるような、大学関係者にとって大変厳しい時代ですが、先人達が築いてきた良い部分が失われないよう、研究と教育、運營業務に勤しんでいきたいと思っております。そして確率論業界に対しては、日本の確率論が世界において一目置かれる立場を維持できるよう、若手研究者の育成と自分自身の研究に励んでいきたいと思っております。